

研究テーマ ● 農地の草刈りにヤギとガチョウを最大限活用する

農学部・農業生産科学科・畜産科学

准教授

高山 耕二

研究の背景および目的

夏場における農地（水田畦畔や果樹園）の草刈りは重労働であり、傾斜地では危険を伴う作業です。現在でも草刈りは人力作業が主体であり、高齢化する農業生産現場での大きな課題となっています。しかしそこにヤギやガチョウを放せば、“厄介もの”だった草が彼らの貴重な“エサ（資源）”に早変わりします。私たちの研究室では、ヤギやガチョウの放牧による効果を最大限に発揮させるために、彼らの好きな草と嫌いな草、効率的な放牧方式などを調べてきました。

おもな研究内容

● ヤギの特徴

- ・ 色々な草を食べる
- ・ 比較的小型で取り扱いが簡単
- ・ 傾斜地や高い所でも自由に行き来できる
- ・ 人懐っこい



傾斜地でのヤギ放牧



水田畦畔でのヤギの繋牧

→ 場所や条件に応じて、適切な放牧方式を選択（放牧 or 繋牧）

● ガチョウの特徴

- ・ 草が大好物（草食性）
- ・ 縄張り意識が強く、鳴き声大きい（番鳥）
- ・ 農作物を痛めにくい



ブドウ園でのガチョウ放飼

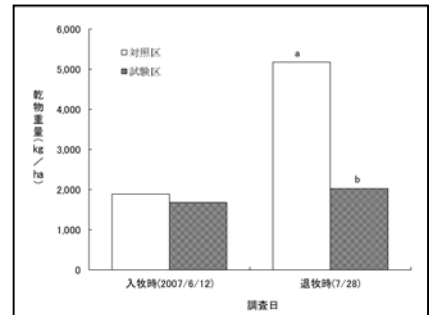


図. 水田畦畔における現存草量: ヤギの繋牧により新たな草はほぼ除草された

傾斜地や水田畦畔での除草利用に適している

果樹園での除草利用に適している

■ 課題

野生鳥獣害への対策、飼育に係る負担（冬場のエサ代等）

→ 電気柵の設置、家畜のレンタル

期待される効果・応用分野

地元農家と協力し農地の形状や植生による家畜の除草能力を検証。効果的な利用法を研究しています。

● ヤギによる除草利用が期待される場所 … 農地：水田畦畔、耕作放棄地、足場が悪い傾斜地など その他：遊休地、メガソーラー用地（太陽光発電用地）など

● ガチョウによる除草利用が期待される場所 … 果樹園（ブドウ、ナシ、カンキツなど）、茶園、水田畦畔、耕作放棄水田など

我が家の農園もヤギとガチョウが畔草刈りに活躍中



■ 共同研究・特許などアピールポイント

- アイガモ農法を研究。地元の日本有機(株)と共同で大型の食用新種『薩摩黒鴨』を開発・商品化。
- 野生鳥獣害防除対策（シカ、イノシシ、カラスなど）についての支援を行っています。害鳥獣の視聴覚等の研究から忌避法のアドバイスが可能です。

コーディネーターから一言

有畜複合農業の一環としてヤギ・ガチョウによる除草を研究。農作物の種類、放牧する場所や条件に応じて、適切な家畜と放牧方式、注意点等を提案します。除草作業にお困りの農家等からの相談をお待ちしています。

研究分野	家畜管理学、動物行動学、有機農業
キーワード	有畜複合農業（アイガモ、ブタ、ヤギ、ガチョウ）、放牧、野生鳥獣害、有機畜産